

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		宇治福祉園 児童発達支援事業所 みんなのき しゅしゅ			公表日		令和8年 3月 15日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	12		・人数や内容に応じて、ホールやプレイルーム、園外、また、隣接している同法人のこども園と連携しながら指定基準以上のスペースを活用している。	・天井等、建物の老朽化への対策をしていく。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	12		・指定基準を満たした上で、子どもの出席人数や特性、活動内容、時間帯に応じて、臨機に調整している。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	12		・外部講師を呼び危機管理の研修を受ける事や、バリアフリー化されていない環境において緊急時等にどのように行動すべきかを月に一度行われている避難訓練等を通して、職員間でイメージを共有している。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	12		・衛生面、安全面については、日々の清掃や点検（修理）、クール末と年末の大掃除を行っている。	・修理されていない箇所については引き続き業者と連携をとりながら適切に対処していきたい。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12					
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	12					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12		・アンケートの結果を職員会議や振り返りにて職員間で共有すると共に、改善に向けた話し合いや保護者への説明等を行なっている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12		・療育の振り返りでの気づきや職員会議等をもとに、改善につなげている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	12		・引き続き第三者評価を受けたり、他事業所の第三者評価に参加された職員に情報を共有してもらったりして、課題の共有や改善を行っていく。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	12					
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	12		・保護者との日々のやりとりや、クール末に行われる個別面談での話をもとに、相談支援事業所と連携を取りながらモニタリングを実施し、計画に反映している。			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12					
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	12					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	12		・標準化された複数のツールや行動観察など独自のアセスメントを使って確認している。			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	12					

な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	12		・担任を中心として立案を行い、会議で共有したのちに、より具体的に内容を深めている。経験していなくても活動プログラムを共有できるように、写真や動画等で残している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	12		・子どもの興味関心や発達に応じた活動を行っている。 ・活動後に毎回振り返りを行い、反省を踏まえたうえでプログラム内容を煮詰めていく事で、固定化しないように工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	12		集団活動と個別活動で経験の差ができないような工夫をしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	12			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	12		振り返りの時には、気づいた点を記録し次の療育に反映している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	12			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	12			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	12		・引き続き担任を含めた、状況に応じた職員がやりとりを行っていく。また、長期的展望を持ち、引き継ぎを行っていく。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	12			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	12			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	12		・個人情報に配慮しながら、併設するこども園と同じ園庭で遊び、自然な交流を行っている。合同の避難訓練や餅つき等の行事へ参加している。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12		・活動終了後の報告時間や個人面談を通して、共通理解を図っている。また連絡帳やメール、電話などのツールも活用している。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	12		・親時間（保護者グループ懇談）や卒園児の保護者との交流の場を設けている。メールや連絡帳、電話などのツールも有効活用している。	

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12		・入園時に書面を見ながら説明を行っている。変更時は書面も交えて説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12		・日々の子どもの様子とともに、保護者との面談や日々の報告等により意思の尊重を行っている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	12		・半年に一度、個別面談にて保護者と内容を確認しながら計画を行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12		・親時間や面談、日々の報告の際に随時行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	12		・卒園児の保護者との交流の場を設けている。その際、特定の保護者に偏らないよう事前に日程を知らせたり、開催曜日を分散させている。 ・きょうだいの預かりや家族で参加する祭りの開催も行っている。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	12			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		12		・個人情報保護及び子どもの特性への配慮のため、地域の人を園内に招待する事はほぼない。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	12		・マニュアルを作成し、職員間で周知している。また、保護者の待機部屋等で閲覧できるようにしている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12		・火災や水害、不審者対応など様々な場面を想定した避難訓練を月に1回行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	12		・初回面接にて、事前に確認を取っている。 ・状態が変化した時には、保護者と職員間で、必要に応じて医師とも連携を取り、確認を行っている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	12			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	12			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	12			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	12		今年度も実施を予定しています。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	12			